

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472100914	事業の開始年月日	平成15年7月1日	
		指定年月日	平成27年7月1日	
法人名	特定非営利活動法人グループホーム虹の会			
事業所名	グループホーム虹の家			
所在地	(248-0024) 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎四丁目5番19号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/inf>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 昼間の職員の人数は法定より1人程度多く、入居者一人一人のニーズに対応出来るようにしている。
- ・ 入居者一人一人が朝1日を気持ちよく始められ、日中の活動を十分にし、満足して1日を終わり、夜安心して休んでいただけることを目標に日々努力している。
- ・ 一人一人に合わせた自然な形でのケアを心掛けている。
- ・ 地域との交流の場を大切にし、地域の方々を講師にお招きし、近所の方のボランティアを得て活動している
- ・ 回想法を採り入れている。グループ回想法は、入居者が一堂に会してお互いに話し合う社会的な場を共有することにより、一人一人が満足した時を過ごすことができ、安心してグループホームを自分の居場所として実感していただけることを目標に実施している。
- ・ 住み慣れた場所で、穏やかな最期を迎えられるように、ターミナルケアに力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月22日	評価機関 評価決定日	平成28年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は江ノ電稲村ヶ崎駅から徒歩5分ほどの竹林や木立に囲まれた閑静な住宅地にある。建物は2階建の木造住宅で1階が共有スペース、2階が居室9室の1ユニットになっている。</p> <p>【理念に基づいた日々の暮らし】 地域に認知症高齢者の受け皿がないことからNPO法人を立ち上げ、理念に沿った介護を掲げて実践している。職員は会議や研修で繰り返し理念について学び管理者の思いを受け継いでいる。理念に即した介護計画は、家族が要望などを書き入れ立案に参加している。職員は、利用者の趣味である能について勉強をして会話を深めたり、好きな物を好きな時に食べて頂くなどその人らしい生活が出来るように支援している。</p> <p>【地域とのご近所付き合い】 地域の中の「ごく普通の家」という立場で、地域とのかかわりを大切にしている。散歩時に交わす挨拶や近くの幼稚園から誕生会の招待を受けるなどの交流がある。避難訓練の際の近隣住民の参加や非常通報装置への名前の登録、かけこみ110番への登録など近隣との協力体制が構築されている。</p> <p>【開かれたグループホーム】 家族がボランティアとして庭の手入れやレクリエーションの講師など、様々な形で施設運営に理解と協力をしている。また地域にも開かれた事業所として、年に1回利用者の作品を展示して、家族や近隣の方など60名が見学を訪れる。「かまくらネットワーク」の活動に参加し、介護についての相談を受けている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム虹の家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の気付きやケア実践の積み重ねを理念に基づいて介護計画に反映させ、サービス提供に活かしている。	地域に認知症の方の受け皿がないことから、同じ志を持った仲間とグループホームを開設した。その時に作成した理念「その人らしい生活」「地域貢献を」掲げ、日々の生活に反映させた支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近隣幼稚園の誕生会に招待していただいている。毎日の散歩でも交流している。 ・地域の方には職員が率先して挨拶し、利用者と自然に交流出来るようにしている。 近所の子供たちがハロウィンに尋ねてくる。	地域の自治会に加入している。近所づきあいを通し、地域に貢献することを考えている。自治会から敬老の日のお祝いが届いたり、イベントへの招待がある。近くの聖路加幼稚園の協力の申し出や散歩時の挨拶、多彩なボランティアの協力、近隣住民の運営推進会議への参加など地域に溶け込むよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域介護支援機構、NPOセンターなどに加入し交流に努めている。 ・認知症の家族を持つ方の相談相手になっている。 ・年一回行う作品展を通じて、グループホームの実情や、認知症の方の生活について紹介している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議には、ご家族代表、近隣住民の方、地区の民生委員などに参加していただき活動への理解を深め、災害対策、レクレーションの内容等幅広く助言を頂いている。	運営推進会議は年6回開催し、民生委員、近隣住民、幼稚園職員、鎌倉市職員、地域包括職員、家族などが参加して、運営状況や活動報告をしている。また、参加者から認知症の相談を受けたり、アロマセラピーのボランティアの紹介があり、今年度から来訪することになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営上不明なことについては速やかに市役所に相談している。 ・書類を市役所に直接持参するなどして、行き来する機会を積極的に作っている。 ・地域密着事業者連絡会では、GH部会の委員として研修開催に協力している 	<p>地域包括支援センター職員や鎌倉市役所高齢者いきいき課職員が、毎回運営推進会議に出席している。書類は市の窓口を持参して顔を合わせる機会を作っている。地域の介護事業所が連携して、年1回行うメイクアップショーに利用者や家族とともに参加をしている。介護相談員の受け入れや、認知症キャラバンメイトの講師としての活動などにも取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束は行っていない ・玄関の施錠については主に防犯上の観点から、家族等によく説明した上で行っている。 	身体拘束排除のため、認知症についての外部研修で、利用者が外に出たい時の心理などを学び、月2回のミーティングで、伝達研修や事例検討をしている。理念の「その人らしく」を踏まえ、行動を否定せず、外に出たいときには付き添う支援をしている。事業所の立地や構造から、防犯や安全を優先して、玄関や階段の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある人員配置により、職員が虐待につながるような過度の緊張状態に陥ることがないように配慮している。 ・虐待についての報道等を踏まえ、そういったことが起こらないように皆で話し合いを持っている 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族等が制度の利用を検討、または必要と思われる場合に、適宜支援している。現在1名の方が同制度を利用し、1名が準備中である。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時は将来のことを含めて出来ること、できないことを明確に説明している。 ・契約改訂に際しては、十分な説明と話し合いの上で行っている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の運営規程、苦情申し立てについての説明文と共に意見箱を設置している。 ・介護計画の家族の意見欄を活用し、希望する事や、直接言いにくいような事も伝達できるようにしている。 	家族の来所が多く、ボランティアとして協力してくれるので、クリスマス会や創立記念日には家族とともにお茶を楽しんだり、利用者家族を招待して懇親会を外部で行い、利用者の以前の生活の様子などの情報を得ている。家族の要望を介護計画書に記載してもらい、職員とともに計画の立案をしている。毎月発行する「虹の便り」とともに、個別に毎月の詳細な情報を職員が手紙にして郵送している。事務所のホワイトボードに、家族への連絡事項を記載して職員が共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の申し送り、月2回の管理者及び職員全員を対象とするミーティングを実施している。検討内容を記録し、周知している。 ・休み時間や、親睦会等で忌憚のない意見を言えるようにしている 	職員は会議で取り上げてほしい内容を用紙に記入して提出し、毎月2回の職員会議で検討している。今年度は「日中に職員の負担が多い。」という意見を受け、食事づくりと見守りに短時間職員を入れることを検討して実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得者への手当支給、研修費用の負担等、意欲の喚起に努めている。 ・今年度から衛生推進者を置き、アンケート等を通じて環境改善に取り組んでいる 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が各種研修に参加できるよう、費用や時間の確保に努めている。 ・初任者研修、新人研修等に参加している ・市主催の認知症ケア研修に職員が参加している 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・かまくら認知症ネットワークに参加し、交流している。 ・他事業所との交流をしている。また、メイクショー等を計画している。 ・虹の家での作品展に他の事業所の利用者を招いている 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの聞き取りだけでなく、必ず本人と面談してその思いや不安などを受け止めるようにしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・管理者は看護師としての経験も踏まえながら相談に乗り、丁寧な説明を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事業所に空きが無く、実際のサービス提供ができない場合にも、誠意を持って相談に乗り、入居待ちをお願いしたり、他のサービスや事業所を紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬の念をもって接するよう、言葉遣いには十分に注意し、認知症であってもふと現れる頼もしさ、優しさ、思いやりの心などに感謝を示すようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・折に触れて本人についての現在、過去の情報を共有している。 ・各利用者の誕生日会を催し、家族と共に祝い、歌うなどしている。 ・家族による思い出話等の中にも、ケアのヒントを見出している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・月一回のグループ回想法を通じて、いろいろなテーマに取り組んでいる。今まで大切にしてきたことに触れられるよう、ふさわしい本や映像を取り入れている。	開設当初から「回想法」を取り入れて、利用者の過去と現在をつなぎ日々のケアに生かしている。外部から人が来ることは、利用者の社会性の回復や、社会参加になるととらえている。管理者以下職員は、利用者の生活歴や習慣に配慮した支援を心掛け、利用者の誕生日には、趣味の本などを贈っている。家族とともに教会へ行く方や、墓参り、法事に行く方もいる。夏まつりに浴衣を自分で着る方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓では仲の良い方同士が会話を楽しみながら食事できるよう席順を配慮している。 ・1階、2階のホールを整備し、ゆったりくつろげる環境を整えた 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居された方のご家族にグリーフレターとお花を送るようにしている。 ・希望される方には催事等に参加できるよう、たよりをお送りしている。 ・亡くなった方のご家族が、絵画教室の先生や手伝いにボランティアとして参加してくださっている 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の申し送りの中で、個々の細かい状態を確認しながら話し合い、希望通りの生活が困難になった方にも、出来る限り希望に添えるよう配慮している。 	思いや意向の把握は、アセスメントや家族から聞いた情報に加え、回想法の時に情報を得ることもある。普段無口な方が、自分が話の中心になることで過去の話を生き生きと話すこともあり、利用者の意外な一面を発見することもある。出身地や趣味、大切にしているもの、注意点などを一覧表にして職員間で共有して、話の糸口を見つけたり、ふと漏らした言葉などで思いをくみ取ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の生活状況、趣味趣向、性格、生き立ち、土地柄、時代背景などの情報をご家族からお伺いしている。 ・回想法での発言や日々の会話、生活の中での気づきを職員間で共有し、ケアに活かしている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間、食事の摂取量、バイタルチェック、清潔の保持、更衣の見守り、レクや家事の遂行等、一人一人の現状に合わせて支援している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ICFの視点を採り入れた諏訪さゆり氏のケアプラン立ち上げシートを利用し、各職員の意見を聞きながら介護計画を作成し、必要に応じて随時見直しを行っている。	介護計画は理念に沿って「その人らしい生活」の継続を念頭に置き、何が重要なポイントになるかを「ケアプラン立ち上げシート」を利用して、職員や看護師の意見を取り入れ作成している。家族の要望を計画立案時に書いてもらい、計画作成に反映させている。介護計画に看護計画を取り入れた独自の書式を作成して、モニタリングを行い、6か月ごとに評価をしている。介護記録ファイルに介護計画書のコピーを挿み、職員が計画を常に意識する工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎月前月分の記録をまとめて読み返し、ご家族へのお手紙にまとめる作業を通して、次の介護計画や日々の実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・高齢や、遠方にお住まいなど、ご事情のあるご家族には、必要に応じて通院に付き添っている。 ・外出が好きな方を対象にドライブに行くなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防や自治会と連携して防災訓練を実施している。 ・近隣の幼稚園と日常的に交流している。 ・傾聴ボランティアが毎週きてくれている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族と相談の上、近隣の提携開業医や提携病院等の受診を支援している。 ・通院が難しい方には月2回訪問診療を受けている。	以前からのかかりつけ医は家族が、協力医には職員が同行して受診している。通院ができない2名の利用者は訪問診療を受けている。訪問歯科も必要時に受けている。管理者が地域で長く看護師をしていた関係から地域医療に精通しており、地域の医師との連携が密である。医療情報や利用者の健康状態は毎月家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員2名(常勤1, 非常勤1)が看護師で、各利用者毎に看護計画を立て、必要なチェックを行っている。 ・体調悪化時やターミナル期には、職員に指導している。24時間対応出来る体制である。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には可能な限り職員も同行し、医師の説明の時は家族が許せば同席している。 ・退院に向けてご家族の希望や医師の意見を聞く機会を設け、リハビリの様子などを見学している 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについての指針を設定し、年1回アンケートを実施している。 ・個々のかかりつけ医には、当事業所の方針について話して了承を得ている。 	開設時から看取りをすることは当然のこととして、今までに12名の方の看取りを行った。管理者が看護師であり、看護職員も配して万全の体制である。入居時に看取りの説明をして同意をもらい、さらに毎年家族に意思確認のアンケートを実施している。職員は、詳細な「ターミナルケア マニュアル」と、管理者や経験した職員からの体験談を聞くことで看取りに対する不安はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訓練は行っていないが、想定される事態に対処するための研修等を随時実施している。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、防災訓練を実施している。その際地域の方にも声をかけ、避難誘導など協力していただいている。 ・火災通報装置に近隣住民への通報を登録している。 	今年度は9月に夜間の火災を想定して、消防署や近隣の住民、幼稚園教師などの協力を受け、利用者も参加して訓練を実施している。2月にも再度訓練を予定している。火災通報装置には近隣住民3名が登録されている。非常災害用備蓄はチェックリストで管理され、水や食料を3日分以上、備品類も備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のプライドを尊重し、注意深く言葉掛けをしている。特に排泄に関することは、メモを用いて連絡を行い、職員が常に確認出来ると共に匿名性を確保している。 	職員は、利用者を人生の大先輩として尊敬の念を持ち接している。入職時に研修で学び、日頃から言葉遣いには留意している。訪問当日利用者のケアにあたる職員の接遇や言葉遣いから、丁寧に親切な態度が把握できた。排泄に関しては、連絡メモで情報を共有する配慮をしている。個人記録は施錠できるキャビネットで、パソコンはパスワードをかけ管理している。事務所は夜間施錠している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 何かを行う前には、個別に希望を伺うようにしている。質問を工夫し、答えやすいようにしている。 折り紙の色や、塗り絵の柄など、好みの物を楽しく選ぶ機会を作っている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 朝は好きな時間に起きる。みんなで一緒に食事したい人は食事時間に間に合うように起きられるよう支援している。 入浴も毎日入りたい方はそう出来るよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの家族に依頼して、好みの衣類や愛用の化粧品等を用意していただいている。 5月には、メイクの専門家にお化粧をしてもらい、母の日の感謝を伝えた 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・好みに合わせた献立の工夫をしている。味覚が低下しているため、見た目にも楽しめる工夫をしている。 ・行事の際には外食に出かけたり、お寿司等の出前を取っている ・皆と一緒に餃子を作ったり、らっきょうを漬けたりしている 	<p>食事は月曜から木曜までは主菜をレトルト食品にしているが、金曜から日曜は利用者と生協のカタログを見て食べたいものを選んで注文している。ほうとうに入れる野菜切りやラッキョウ漬けの皮むきなどできることを手伝っている。誕生日当日は出前の寿司を頼んだり、機会を見つけて、月に数回外食を楽しんでいる。茶碗、湯飲み、箸は銘々のものを使用している。誕生日に職員が利用者の好みのものをプレゼントすることもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下の悪い方にはトロミ剤を使用、堅いものが食べられない方にはミキサー食、ムース食を用意し、摂取量が改善した。 ・暑い日には約一時間毎に50～100ml摂取を心がけている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後にお茶をお出ししている。 ・元々の生活習慣に合わせているため、毎食後に行う人もいれば、朝晩のみの人もいる。丁寧な口腔ケアを心がけている。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの方に合った排泄時間に合わせたトイレ誘導などを行っている。 ・歩行の困難な方には夜間居室にポータブルトイレを設置するなどしている。 	排泄はトイレであることを基本にチェック表などでパターンを把握して支援をしている。夜間だけポータブルトイレを使用する方もいる。現在完全自立でトイレに行く方が1名、布パンツの方が4名いて排泄の自立度は高い。1階の浴室わきのトイレや2階トイレ横にシャワー室を設け失敗した場合の配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の散歩や体操を行い、繊維質のものを食事に取り入れている。 ・乳酸菌飲料を飲むなど、水分補給に努めている。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望や身体状況に合わせて、時間帯や回数、入浴の形態、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるよう支援している。 ・浴室昇降機を設置し、立位の不安定な方も入浴が楽しめるようにしている。 	利用者は、3日に1回入浴をしている。昨年職員の提案で、浴槽内昇降機を設置して全員が浴槽につかれるようになった。脱衣場にカーテンの仕切りを付けプライバシーに配慮している。浴室内の暖房機や脱衣場の温風ヒーターで冬場のヒートショックに備えている。季節の柚子湯や菖蒲湯、好みのシャンプーで入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人が希望すればいつでも横になれるようさりげなく声かけ、見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服用中の薬の一覧表を看護師のチェックの下で作成し、活用している。 ・新しい薬が処方された場合は、症状を観察、報告している。 ・降圧剤の中止に際しては、医師と連絡を取りながら対応した		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・1日に一度はみんなで歌う機会を設けている。 ・座ったままで出来る仕事、立ってする事など、それぞれの能力に応じて家事に参加出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎日、散歩に出られるよう支援している。 ・少し遠くまで外出する機会として、外食に出かけたり、フラワーセンターに行ったりしている。	天気の良い日には、個別に車いすの方も散歩に出かけて近所の方や幼稚園児と言葉を交わし交流している。年に4回大船のフラワーセンターに全員で出かけている。家族対応で外食や教会に出かける方もいる。買い物は職員と車で個別に出かけ、好きなパンなど購入している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の管理、使用が困難なケースも多い。それぞれの状態に応じて、お金の不安を解消できるように支援している。 ・可能な方には、訪問美容師にご自分で支払えるよう支援した		

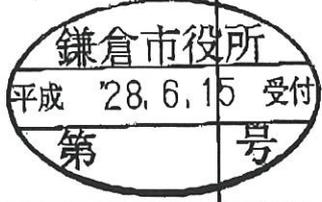
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙等を見て楽しまれた後、混乱される例もあり、お預かりする等している。 ・できる限り本人の希望に添うようにしている。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・建物自体が一般の住宅の様な作りで、安心して生活できるよう配慮されている。 ・各部屋に温湿度計を設置し、調節に活用している。 ・1階ホールに大きめのテーブルを設置し、庭を眺めながら共に過ごせる。庭の手入れはボランティアが来てくれている 	木の温もりがある日当たりのよいリビングには、ピアノが置かれ、職員の演奏で歌を歌ったり、本や塗り絵などで利用者は思い思いの時間を過ごしている。2階の階段に面した共有部分には、ソファベッド（家族が泊まれるスペース）や長椅子が置かれ、朝や夜のくつろぎの場所になっている。ボランティアが植えた花が見える玄関スペースや、リビングには、職員や利用者が共同制作したのれんや季節の飾りが施されて明るい雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自由に外気浴出来るよう玄関前にベンチを設置している。 ・2階ホールにはソファを設置し、ゆったりと過ごすことができる。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の居室の備品は本人の好みであった、あるいは使い慣れた物をご家族に持参していただいている。 ・テレビ、ラジオ、CDプレーヤー等、それぞれの好みに応じて置いている。 ・写真等が混入の元になることはなく、目めくりカレンダーを3カ所に貼り、常に日付が確認できるようにしている。 ・危険があると思われる方には、センサー等を使用して安全確保に努めている。 ・歩行困難な方には、室内でもピックアップ歩行器を使用して頂いて 	居室は2階に左右に分かれて配置され、エアコン、照明、クローゼットが備えてあり、各室に手作りの木の表札が下げてある。利用者は自宅から持参した整理ダンスや鏡台、いす、机、テレビ、仏壇などを置いている。家族が飾った写真やぬいぐるみ、カレンダー、自作の作品などで居心地のいい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・目めくりカレンダーを3カ所に貼り、常に日付が確認できるようにしている。 ・危険があると思われる方には、センサー等を使用して安全確保に努めている。 ・歩行困難な方には、室内でもピックアップ歩行器を使用して頂いて 		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム虹の家

作成日 平成28年 6月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念が定まっていない	事業所の理念を定める	職員等から理念の内容を募り、職員間での話し合いを持つ。	3ヶ月
2					
3					
4					
5				 鎌倉市役所 平成 28.6.15 受付 第 号	

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。